



2022年11月9日

各位

会社名 株式会社イーエムネットジャパン  
 代表者名 代表取締役社長 山本 臣一郎  
 (コード番号：7036 東証グロース)  
 問合せ先 常務取締役 CFO 兼管理統括部部长 村井 仁  
 (TEL. 03-6279-4111)

当社の親会社 ソフトバンクグループ株式会社  
 代表者名 代表取締役 会長兼社長執行役員 孫 正義  
 (コード番号：9984 東証プライム)

当社の親会社 ソフトバンク株式会社  
 代表者名 代表取締役 社長執行役員 兼 CEO 宮川 潤一  
 (コード番号：9434 東証プライム)

### 2022年12月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえた結果、2022年12月期(2022年1月1日～2022年12月31日)の通期業績予想を以下のとおり、修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 当期の通期業績予想数値の修正(2022年1月1日～2022年12月31日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円銭)
前回発表予想(A)	1,960	600	599	402	104.97
今回修正予想(B)	1,440	173	184	126	32.96
増減額(B-A)	▲520	▲427	▲415	▲276	
増減率(%)	▲26.5%	▲71.1%	▲69.3%	▲68.5%	
(ご参考) 前期実績 (2021年12月期)	10,672	503	436	311	81.82

#### 2. 業績予想修正の理由

2022年2月9日付で公表いたしました2022年12月期の通期業績予想においては、新型コロナウイルス感染症の収束に向けた動きを前提としておりました。

当社のインターネット広告市場はコロナ禍におきましても他の広告媒体と比較して順調に推移してお

り、特に大企業や一部の業種において広告出向意欲が回復傾向にあります。その一方で、当社の顧客の中心でございます中小企業や地方企業においては、国内では今年7月頃より新型コロナウイルスの急速な感染拡大や、米国の金融政策による急速な円安の進行、また海外ではロシアによるウクライナ進行やエネルギー価格の高騰等の様々な要因により、景気の先行き不透明感を背景とした広告出向意欲の鈍化の現象がみられました。

こうした状況下において、当社はこれまで新規顧客の獲得や既存顧客の広告予算増加に注力し、またソフトバンク株式会社との協業拡大に注力して参りました。しかし、当社の売上高の約8～9割を占めております既存顧客について、主に広告予算の増額の獲得が想定を下回った為、既存顧客への売上高が通期予想比で▲21%と想定しております。また新規顧客の獲得による売上高につきましても、当初の通期業績予想比で▲57%と想定しております。この想定により売上高の通期業績予想を前回発表予想から▲26.5%としております。

また販売費及び一般管理費につきましては、前回発表の通期予想比▲7%とコスト削減を予想しております。当社では、当初の通期業績予想の策定時にテレワークによる社員の出勤率を平均70%程度と予想しておりましたが、現状では平均50%程度で推移しております。その為、社員の出勤率低下による通勤費や旅費交通費、会議費、交際費等のコストが通期予想を下回ると予想しており、通期業績予想に対して▲75%と想定しております。しかしながら、営業利益につきましては、上述の売上高の減少の影響が大きく前回発表予想比で▲71.1%としております。

今般、新型コロナウイルスの感染状況による業績への影響は軽微であるとみておりますが、第4四半期の受注見込み等を再確認し、慎重に検討した結果、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益については通期業績予想を下回ることが予想されるため、通期業績予想を下方修正いたします。

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在に置ける仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

### 3. 期末の配当予想につきまして

なお、通期業績予想は修正いたしますが、期末の配当予想につきましては、前回予想どおり12円00銭を予定しております。

以 上